

# Keiba Global Front Line



## 競馬グローバル・フロントライン

競馬の最前線で活躍する馬や人をご紹介致します

合田直弘

今月のこのコラムは、2016年の欧米におけるフレッシングマンサイヤーチャンピオンをご紹介したい。

欧洲における16年の新種牡馬と言えば、フランケルが話題を独り占めした感があるが、英國と愛國の数字を合算した

に立つたのは、愛国のタリーホースタッドで供用されているサープランスマロット(父タマユズ)であつた。103頭登録され

た14年生まれ世代のうち、実に71頭が2歳シーズン終了時までに出走し、このうち28頭が勝ち上がりがて42勝をマーク。出走頭数も勝ち馬数も勝利度数も、いずれも新種牡馬の中ではトップで、仕上がりの早さを活かした圧倒的頭数を背景としたリーディング奪取であった。

りの早さを活かした圧倒的数量を背景としたリーディング奪取であった。

戦し、G3フライングチルダーズS(芝5F6Y)を含む3勝をマーク。G2ロベルパン賞(芝1100m)で2着となつた、早熟のスピード馬であった。2歳シーズン終盤に故障を発生し、3歳を迎えたばかりの13年春に種牡馬入り。種付け料が60000ポンド(当時のレートで約86万円)というお値打ち価格に設定されたこともあり、生産

28頭の勝ち馬の中には、G3デイツクプールフィリーズS(芝6F)を制したマダ

ムダンスアロット(牝、母の父デインヒル)、

スだつたわけだ

LRロッキングハムS(芝6F)を制した他、G3サマーヴィルS(芝7F)3着の成績を残す。ダービー、コッパーズ(上、母の父)、スミスミルク(16.5)など、GI競走を勝った馬も複数いる。

を残したヤーランジスコット（母の父デインヒルダンサー）らが含まれている。

のノイド、(1965E)でテビト勝ち。2歳時はその1戦のみで終わつたから、こと

1ジャックルマロワ賞(芝1600m)やG1

さらに仕上がりが早かつたわけではなかつた。  
そしてダイアルドインの父マインシャフト

シャンニン賞(芝1600㍍)の勝ち馬で母の父キヤットレイルはG2チャレンジS(芝7F)勝ち馬だから、配合次第でマイルまでこなす産駒が出てもおかしくはなく、3歳シーズンを迎えてバッタリと止まるほど早熟な血脉でもないと見る。

は3歳デビューの馬だったから、ダイアルドインの新種牡馬ランキンギング首位は、血統的にも「大穴」だったのである。ダイアルドインは、母ミスドゥーリトルが2歳時に2勝しており、祖母はG1BCジョヴエナイルフィリーズを制して2歳女王となっ

一方、北米におけるフレッシュマンサイヤーランキングで首位に立つたのは、ケン

たライザだから、仕上がりの早さは母系から継承した形質であろう。

タッキーのダービーダンファームで繁養されているダイアルドイン(父マイシンシャフト)であった。

3歳春にフローリダでG1フローリダダービーI（d9F）を含む2重賞を制した他、3冠2戦目のG1ブリーケネスS（d9.5F）で4着こそ健闘したダイアレディインは、

13年に北米で種牡馬入りした馬で、初年度の種付け料が高かったのは、3万5千ドルで供用されたユーロンラッゲスや、

F)で4着に健闘したダイアルドインは4歳時は1戦したのみで5歳春に種牡馬入りしている。

3万ドルで供用されたボディマイスターで、ランディングの2位がユニオンラッゲスで3位がボディマイスターだったから、彼らも期待に応える成績を残している。ところが、初年度の種付け料が7500ドル（当時のレートで約70万円）だったダイア

14年生まれの世代は103頭いて、このうち40頭がデビュー。G2サラトガスペシャル（d6.5F）、G3デルタダウンズジャックポットS（d8.5F）を制したガネヴエラ（牡、母の父アンブライドルド）を含めて19頭が勝ち上がっている。

ルドインが彼らを上回る成績を挙げたの  
だから、歐州同様に北米でも、新種牡馬

2歳戦で終わる種牡馬ではなく、今後が注目される存在となりそうだ。